

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『みんなで いっしょに 支えあう』 1 その人らしい、快適で穏やかなシルバーライフをお手伝いします。 1 心をこめた、適切なサービスに努め、その心を磨きます。 1 様々な機会を利用し、地域の人々とのふれ合いを大切にします。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	共同生活を通していくことにより信頼関係を築きあげると共に、各スタッフが意義や役割を理解できるよう意見交換を行っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には来訪時に伝え、来訪できないご家族には送付、電話での連携となっている。地域住民の方に対してはパンフレットを配るなど地域向けの情報誌などの発行は行っていない。	<input type="radio"/> 地域住民の方に対し、地域向けの情報などを発行し、事業所の内容を理解していただけるような取り組みを行っていききたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩、行事参加など近隣の人達と挨拶交わしたり話をしたりしている。また、行事(催し物)など実施する時など声かけするなどしている。	<input type="radio"/> 行事等を行う際には声かけを行うなどし、日常的付き合いができるよう取り組んでいきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区小中学校の運動会への参観、花見、阿波踊りなど利用者と一緒に参加している。	<input type="radio"/> 積極的な地域の行事参加に乏しいため、地元の活動や地域住民との交流に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	散歩時などのご挨拶のみにとどまっている。	○	地域の方々との交流が乏しいため、今後ホーム便りを作成、発行するなどし、認知症の理解や接し方について理解が得られるよう積極的に取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	GHの意義、及び役割を職員が理解できるように意見交換を行うと共に、利用者が安心、安楽に生活が送れるように助言し、共有している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での評価結果を踏まえ、現在の意見や要望について質疑応答を行い、サービス向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市への報告、相談等は取れていない。	○	市への月次報告、活動状況報告を送付するなどし、行き来する機会をつくれるよう取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護、地域福祉、管理者が対応しているため他の職員はほとんどが理解できていない。そのため、必要な時に支援できる体制が万全とはいえない。	○	機会あるごとに勉強会を開き、職員への説明に取り組んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	テレビ、新聞などで高齢者虐待のニュースを聞くたび、申し送りを取り上げたり切り抜きをするなどし、尊厳ある人生についての周知徹底を行っている。GHに入所し、共に共同生活を送る者どうし、周知徹底されなければならない事であるため、今後も引き続き職員体制を万全にしたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の不安や疑問を個々の場に立って理解ができるよう入所時に契約書、重要事項説明書など明確に説明し、疑問点については尋ねることが出来るように理解、納得を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、目安箱等の設置を行うなどし、苦情は真摯に受け止め、努力改善に努めると共によりよいサービス向上に努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族には来訪時など個々の健康状態などお話をさせていただいています。	○ 来訪できにくい、県外にて高齢者である方など電話、家族便りのみとなっているため、細かい配慮ができるように取り組んでいきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情設置箱、苦情用紙など家族の目にふれる場所に置くようにし、また意見などがあれば来訪時に聞くように配慮を心がけている。	○ 家族同士での集まりの場がないため、個々に職員との対応となるため、できる限り揃った時には声かけ行い、家族同士で会話ができるよう取り組んでいきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアカンファレンス、意見、希望などあれば個別に必要なに応じ対応し、また話しきれない部分については、時間をかけて話を聞くようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は状況に応じた対応ができるようにシフトに組み入れていないため、夜勤の対応や緊急時には間に合うような体制がとれている。	○ 利用者に対して「気づき」の体制がとれるような勤務調整を行えるように人員配置の調整に取り組んでいきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	家族の一員として、共同生活を共にしているため、悩み、苦しみ、怒りなど、一緒に分かち合うことが出来るようさりげない言葉がけを行うと共に、異動に関してはやむをえない理由のみとし、利用者に対しては信頼関係が築けるようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を希望する人に対し、受けられる組織体制となっている。また、研修を習得した職員により資料など閲覧できるようにしている。	○	できる限り研修の機会を設けてもらい、職員全員が順番に参加できる機会を作ってもらえるよう取り組みたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	共通した目標に向けたサービス向上を図ると共に、ネットワーク作りや勉強会の活動が出来るよう日々サービスの質を向上させていきたい。	○	地域の同業者との交流に至っていないため、今後意見交換などを実施し、サービス向上に向けた取り組みをしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に職員のストレスを緩和できるよう、理事長自ら話を聞くなど信頼関係に努めている。	○	親睦の場が今後多く設けられるように月に1度、曜日を決めるなどし、コミュニケーションが図れるように取り組んでいきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	健康診断の実施、資格取得評価など、個々に合わせる事ができるように努めている。	○	資格取得は個々に希望があるため、時期などに合わせた学習の場が提供できるように取り組んでいきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	日常生活の中で利用者の不安や混乱を心身の状態や動作などに目をやり、職員と本人との連携により、よりよい関係が築けるように努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	各家族の事情に応じ、話を聞き、状況把握に努めると共に、本人と向き合い、求めている事を理解し、できる限り希望を叶えられるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、困っている事があれば可能な限り相談に乗り、状況等を確認しながら対応している。	○	必要に応じてできないと思うことでも安易に逃げず、他のサービス機関に目を向け利用していただけるよう取り組んでいきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在利用者全員車での移動利用サービスを利用されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人が心地良く生活が出来るよう工夫すると共に、お互いが支えあうことが出来るようにしている。	○	ただ呆然と介護するのではなく、共に励まし合いながら生活が出来るよう一人ひとりの苦しみ、不安を取り除いてあげることが出来るよう取り組んでいきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人にとって誇りがあり、今までの暮らしの中で張りや感情といったものを受け止め、家族との情報交換を密にし、共に考えることが出来るよう支援している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の支援者ということを頭に置き、少しでも両者の距離を縮め、一分、一秒を大事に、そして大切にしながら出来るよう常に本人の立場に立ち、本人の思いを知り、来訪時にはご本人とご家族の絆が大切に出来るよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆時、お墓参りに出かける利用者がおられたり、学会の参加を楽しみにされるなど継続的な交流が持てるよう働きかけている。	○	利用者一人ひとりの知人、友人等に働きかけ、電話、手紙での連絡を取り持ち交流が途切れることのないよう取り組んでいきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	暮らしの中で気持ちに張りやうるおいをもたらすよう自身で出来ることをしてもらい、一人ひとりが役割を持ち、共に根気強く見守るようにしている。身体状態が個々に違うため、根気強く見守り、共に楽しく過ごすことが出来るよう一人ひとりに合わせた声かけを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所へ移られた方の決定過程は明確であり、家族、本人には納得のいく支援、同意を得ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちを把握し一人ひとりの話に耳を傾け、個別情報を視野に入れながらその人らしい暮らし方を導き出せるよう御家族と連絡をとり情報を得ている。	○	意思疎通が困難で、ご家族の方がご高齢という方は情報も難しくなるため、今後話し合い、取り組んでいきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、知人、関係者など来訪時に本人の生活歴など聞いている。	○	一人ひとりの全体像を具体化するためには情報は欠かせない物であるため、本人自身の語りにも日々耳を傾け、話し合い、取り組んでいきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりと過ごす時間を大切にし、日々穏やかに生活が出来るよう本人に合わせた言葉がけ、同じ目線を心がけると共に、全体像を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活の中で自分らしく暮らせるよう利用者の言葉に耳を傾け、話をし、家族と情報交換を行うなどし、職員カンファレンス、申し送り、意見交換など共通認識を持ち、日々のケアを行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態変化により、家族、本人の要望に応じ、介護計画書の効果状況を職員の記録、気づき等と照らし合わせながら見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイル作成し水分量、食事、排泄等身体状態及び日々のチェック表、業務日誌にて様子が分かるようにしており、日々情報交換を行い、本人が安心して生活が出来るようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	可能な限りご家族の要望を聞き、外泊等個々の満足を高めることができるよう状況に応じ今後も通院や送迎等必要に応じ、要望が叶えられるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察、消防、地区小中学校へはホーム概要を説明するなどし、行事参加を通して交流を働きかけている。	○	地域の方々との交流、積極的なアピールに乏しいため、今後取り組んでいきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や体調に応じて訪問理容サービスを利用してもらっている。	○	ボランティアの方々に来訪していただけるよう、各事業所への働きかけするなどし、連携を図り取り組んでいきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの関係構築には至っていない。	○	地域包括支援センターとの連携を図りながら、解決困難な状況に陥った時、糸口が見つけられるよう協力関係が築けるよう取り組んでいきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療機関による24時間対応の医療体制があり、また本人やご家族の希望に応じ、他の医療機関とも関係を密に結んでいる。ご本人、ご家族の希望を考慮に入れながら今後も事業所の協力医のもと、よりよい関係をこれまで以上に結んでいきたい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	週1回医師の往診があり、状態の変化など報告をすると共に適時相談をしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日頃からの健康管理、記録等を怠らないように看護職員を配置しており、利用者一人ひとりのケア、健康状態の把握に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	個々に合わせた入院生活が送れるよう、ご家族への早期の連絡、及び早期退院に向け医療機関と連携を図っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態変化により、その都度ご家族に連絡をとり、意思確認をし、ご家族の気持ちにそえるようにしている。	○	状態変化に早期に気付くことができるよう医師、看護師と共に、「気づき」職員一丸となり取り組んでいきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ちを大切にし、家族の意向を聞き、安心して終末期を迎えられるよう、医師との連携を図り、常に状態報告と指示を仰いでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時に係わる保険医療福祉関係者と十分な情報交換を行い、移り住むダメージが少なくすむよう細心の注意を払えるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の意思確認の配慮、言葉かけ、全職員が個々のプライバシーを尊重し、対応、配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々に希望を聞き、できる範囲内で自立支援のため可能な限り本人の希望を取り入れると共に、信頼関係に努め、本人が決める場面を少しでも多く出来るよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出支援、散歩等身体状況の把握に努め、可能な限り希望にそえるよう対応している。	○ 外出支援については個々に対応しているが、回数が少ないため本人の希望にそって増やすことができるよう取り組んでいきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の希望を聞き、衣類交換、化粧など要望に応じ、口紅をつけてあげるなど配慮すると共に、出張サービス美容院を2ヶ月に1度利用している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に野菜の皮むき、テーブル拭き、食器洗いなどをし、おやつ作りは好物に合わせたメニューを職員と一緒にやっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの状態に合わせて、本人が望む飲み物、おやつを買っている。たばこについては職員が預かり、本人の希望により換気のよい広い場所で吸えるよう配慮している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの把握をチェック表にて確認すると共に、個々の状態に合わせ昼・夜使い分けを行い、自立支援に努めると共に、スタッフ間での情報交換にて対応している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	不安が過大にならないよう優しく、くつろげる入浴を提供できるように努めていると共に、入居者の希望があれば毎日の入浴を実施している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	要望に応じ、テレビ観賞、話し相手、レクリエーション等自由にくつろいでいただき、過度な昼寝など昼夜逆転が起らないように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりに即した事を自身の能力により役割を決め遂行していただき、職員と共に自身にてできる事、例えば掃除など上手に手伝ってくれている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金として事務担当が管理している。職員が代行にて買い物をする場合がある。ご家族の同意を得、自立維持のため小額のみ本人が管理する場合もある。できる人に対しては買い物時など自身の手にて持っていていただき、支払いが出来るよう支援させていただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に本人の希望状態に合わせて散歩行っている。	○	一人ひとりに声かけし、希望によりできる限り散歩は日常的なものとなっているが、外出支援に至っては、回数が少ないため、できる限り戸外に出かけることができるよう支援して行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	県内の利用者に対しては、ご家族の協力を得、お墓参りなどの支援につなげている。	○	県外の利用者に対しては、「故郷に帰りたい」との希望あるが、ご高齢だったり、ご家族等の事情により実現に至っていないため、今後ご家族の協力のもと支援に繋げたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々のプライバシーに配慮し日常的に電話でのやりとりを行うようにしている。また毎年賀状を出すなど、希望があれば手紙をしたため、発送できるよう支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも立ち寄っていただける雰囲気作りに努めると共に、ドアの開閉等には十分留意し、居心地よく過ごすことができるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	点滴等致し方ない場合のみ同意書を得て限定的に行う場合がある。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族の方に対しては無条件に通しているが、面会者に対しては本人の同意を求めなければならないため、やむを得ず施錠していることがある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	申し送りの徹底、業務の役割意味を理解し、介護ができるよう同じ空間での作業を行うと共に夜間はフロアでの対応を行うなどし、瞬時に行動ができるように工夫している。死角部分については、入居者の状態に合わせての時間調整、見守り、声かけなど状況の把握に努め、24時間利用者の安全に取り組んでいる。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態により、必要な物、必要でない物、厳重に保管すべき物、保管管理が必要な物について、必要時には声かけしていただくなどし、一人ひとりに合わせた対応をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状態の把握に努め、記録に残し、職員間での共有認識を図り、万が一事故が発生した場合には、速やかに事故報告書を作成し、予防対策について検討を行うと共に、家族への説明と報告を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	個々に指導は行っているが、全ての職員の周知徹底には至っていない。	○	初期対応の訓練は定期的には開催していないため、今後取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署、警察署の協力を得、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの把握はできている。	○	災害に備えた備品等の準備、及び地域の人々の協力など積極的な働きかけができていないため、今後取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	職員間での意見交換、申し送り等行い、利用者一人ひとりの暮らしの大切さについて話し合うと共に、来訪時に身体状態の説明をし、状況の変化に応じて連絡をとりながら丁寧に説明し理解を得られるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個別ファイルにて継続的にチェックできるシステムとなっており、異変時には主治医に報告すると共に、職員間で共有し対応にあたっている。ただ呆然と介護するのではなく、「気づき」や提案など利用者が安心して生活を営むことができるよう取り組んでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの利用、及び職員が内容を把握できるよう説明、筆記を行っている。主治医、及び管理者がその都度説明し、誤薬などが発生しないよう取り組んでいる。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	柔軟な繊維性に富む新鮮な野菜、果物、及び水分補給を行うと共に、個々の生活のリズムを崩すことなく、一定の時間に排泄誘導を行うと共に、下部マッサージなどを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後のうがい、義歯洗浄等清潔保持に努め、一人ひとりの習慣や意向を踏まえ、確実に出来るよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を毎日のチェック表に記録し、職員が情報を共有している。栄養の偏りがないう献立は系列法人の管理栄養士に毎月作成してもらっている。また、水分補給についても10時、入浴後、散歩後など摂取を心がけている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	資料を回覧にして回し、捺印行い、全職員で学習し周知徹底をすると共に予防、対策に努めている。また、利用者、及びご家族に同意をいただき職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いの基本マニュアルを掲示すると共に、調理用具等の熱湯消毒、また食材については在庫管理を作るなど、冷蔵庫での保管、賞味期間についても点検を行っている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	いつでも立ち寄っていただけるよう、玄関周りに植木、プランターなどを置いている。職員、利用者共に笑顔での挨拶に努めている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の側面に流れる清流、四方を豊かな緑に囲まれ利用者が安らげる環境を提供すると共に、季節ごとの環境作りを行う工夫をしている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	屋外は広く、日光浴なども十分可能であり、照明も3段階調整可能とし、光の状態に合わせカーテン、ブラインドにて対応し、フロアに至っては、面積が広くゆったりと心地良く過ごせる雰囲気を提供できるよう配慮している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の要望を聞き、馴染みの自身の持ち物、仏壇、写真等使い慣れた日用品を部屋に持ち込まれ、安心感を持って過ごせるような配慮をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝方は全フロアー、居室の換気行くと共に、夜間時は温度計にて適時調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、フロアー等に手摺を完備し、安全に配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	おだて、褒め、可能な限り共に暮らせるよう一人ひとりのできる事を見出し、残存能力を活かすことが出来るよう配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋外は広く、土いじり、物干し場、日光浴なども十分可能となっている。また、四方を山々に囲まれており、空気がよく、季節感を体で感じる事ができ、利用者にとって一番の憩いの場であり、穏やかにのんびりと日常生活が送れるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
		○	③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム美郷という家庭の一員として、日常生活を安心して送っていただけるよう支援させていただくと共に、よりよい信頼関係を利用者、職員ともども築き上げることが出来るよう、掲げた理念に基づき、少しでも近づける介護が出来るよう、日々努力、精進していきたい。